

野外活動プログラム

活動名		いさはや防災教育プログラム	
内容		災害時に想定される困難な状況を工夫してグループで解決する活動や避難所を想定した生活体験等を通して、災害に対する日々の備えを見直すとともに、災害時に主体的に物事を判断し行動する力や互いに協力して生き抜こうとする態度を育み、防災・減災について自主的に学び考え続ける青少年を育成する。	
条件	場所	自然の家が指定する場所 (屋外、屋内共に使用)	対象 小学校高学年以上
	時間	2時間～6時間程度 (避難所体験は1泊2日)	人数 8人～60人程度 (1G7人程度、8Gまで)
	時期	通年	天候 雨天可
期待される教育効果		(1)グループでの活動を通して、共助の精神を養い、防災・減災に興味関心を持つ。 (2)災害へ対応するためには、普段どのような備えが必要かについて、自分なりの考えを持つ。 (3)災害時や避難所生活に起こる不測の事態に対して、戸惑うことなくその状況に応じて自分自身で判断し行動できる力を身に付ける。 (4)他の参加者と協力して課題に立ち向かい、困難な状況を乗り越える力を身に付ける。 (5)避難所生活の模擬体験を通して、災害時でも前向きに力強く生活できる力を身に付ける。	
準備物	自然の家が貸し出す物		団体（個人）が準備する物
	☐ ロープ ☐ 水消火器 ☐ バケツ ☐ バインダー ☐ 防災用品		☐ 動きやすい服装（長袖、長ズボン、運動靴） ☐ 水筒 ☐ タオル ☐ 帽子 ☐ 筆記用具 ☐ 雨がっぱ（雨天時） ☐ 救急用品
展開		1. 事前（準備） (1) 団体のねらいに沿った活動内容の選定、活動時間の設定を行う。 (2) 活動場所の下見を行い、危険箇所や所要時間等を把握する。 (3) 自然の家職員と安全管理の方法について打合せをする。 ① 各活動場所に引率者を配置し、子供たちの活動状況を把握する。 ② 引率者は、各活動の内容について把握し危険なポイントを理解しておく。 (4) 班分けを行い、各活動を行うローテーションを決めておく。 (5) 当日の天候を見て、自然の家の職員と相談の上、実施の判断をする。 2. 活動 (1) 代表者は、指定された場所で貸出物品を受け取る。 (2) 導入、安全指導を受ける場所に集合し、点呼及び健康観察を行う。 (3) 活動に必要な用具を受け取り、安全面に関する注意と、ルールやマナー等についての話を聞く。 (4) 活動場所に移動し、グループごとに活動を開始する。 (5) 適宜休憩をとり、水分補給、健康観察を都度行う。 (6) 決められた時間まで集合し、点呼及び健康観察、ふりかえりを行う。 (7) 傷病者が出た場合は、ただちに自然の家に無線連絡を行う。 3. 事後（片付け） 代表者は、事務室に貸出物品を返却する。	
安全管理ポイント		☐ 活動中は天候に注意する。(雨天時でも活動可能だが、雷鳴が聞こえたら中止) ☐ 熱中症に注意し、水分を十分にとる。 ☐ 移動時の転倒に注意する。 ☐ 休憩時間に事故が起こりやすいので、休憩中も目を離さない。 ☐ 道具の使用方法を守る。	
活動実施の手引き			

引率者の心構え	1. ねらいを明確にした活動計画を作りましょう (1) 「何のために実施するのか」「どのように活用するのか」そのねらいをはっきりさせて計画を作りましょう。 (2) ねらいや参加者の体力に応じて、活動内容や活動時間を決めましょう。 2. 事前及び事後学習の機会を設けましょう 災害にはどのような種類があるのか、発災時にはどのような状況になるのか等、災害について事前に学んでおくことで、本活動と発災時の状況を重ね合わせて考えることができます。また、本プログラムで体験して感じたことや学んだことを再度整理することで、今後の防災減災に向けた取組へつなげることができます。
安全な活動のための準備	1. 服装、装備 (1) 長袖、長ズボン、帽子の着用 ・自然の中での活動は、夏でも長袖、長ズボン、帽子が基本です。肌の露出は控えましょう。 (2) 運動靴と靴下を着用 ・履きなれた運動靴を履きましょう。脱げやすいものや底がつるつるのものは滑りやすく危険です。 ・足が固定されるように厚手の靴下を着用しましょう。 2. 事故に備えての対応 (1) グループに傷病者が出た場合、誰が、どのように対応するかを事前に決めておきます。 (2) 万が一の事故に備え、諫早自然の家、学校、保護者等の関係者への連絡方法を決めておきます。 (3) 引率者は、活動開始時、終了時等、絶えず人員の確認と参加者の健康状態を確認することが大切です。
自然の家来所前に指導していただきたいこと	(1) 体調を万全にして臨む。 (2) 出発前に服装、装備などをお互いに点検する。 (3) 活動中は、グループ全員がまとまって活動すること。 ① 単独行動は、けが等の原因になります。また、体調が悪くなる、けがをするなどして動けなくなった場合に、引率者との連絡が困難になります。 ② 万が一誰かがけがをしたり、具合が悪くなったり、動けなくなったときは、ただちに近くの仲間や引率者に知らせ、助けを求めるようにします。 (4) 身の安全を守る。 ① 蛇や蜂等の危険動物を発見したら、全員に注意を喚起する。 ② 天候が変わり、雷の音が聞こえた場合は、すぐに戻るか、建物の中に入る。 (5) 水分補給は、少量ずつこまめに行う（のどが渇く前に飲む）。 (6) 防寒着をこまめに脱いだり着たりして、体温調節を心がける。 (7) 帰着時はきちんと靴の泥を落とす。
活動中止等の基準	以下の状況の際は、建物内で実施できる活動に変更する。 (1) 落雷の危険がある 〈基準〉・雷警報が発令されている。または、雷鳴が聞こえる。 ・雷注意報発令中で、気象レーダーで雷雲の発生が見られる。 ・自然の家事務室のサンダーメーターが作動した際には、中止する。 (2) 大雨の危険がある 〈基準〉・大雨警報、洪水警報が発令されている。 ※注意報発令時は自然の家と実施団体で相談の上、判断する。 (3) 濃い霧が発生している。 〈基準〉・霧が出ているときは自然の家と実施団体で相談の上、判断する。 ※実施に不安がある場合は、遠慮せず事務室に相談にお越しくください。
選択活動紹介	

1. 防災クイズラリー



ねらい：防災減災に関する正しい知識や行動を理解する。

内 容：防災減災に関する2択クイズを解いていき、ゴール地点を目指す。2択クイズの答えにより、次の行先が変わり、正しい答えを選択することで、ゴールまでたどり着くことができる。

活動エリア：本館～別館～いこいの散策路周辺

時 間：90分～120分程度

2. 消火訓練（水消火器）



ねらい：地震の影響による火災の発生時に、初期消火ができる技術を身に付ける。

内 容：水消火器を用いて、火災発生時に消火を行う手順を確認し、実際に操作する。

活動エリア：ピロティ、多目的広場等

時 間：60分程度

3. 応急手当訓練



ねらい：災害時に怪我をした際の手当について理解し、処置ができるようになる。

内 容：裂傷や骨折等において、どのような処置をするかを学び、実際に模擬実習を行う。

活動エリア：学習室、本館周辺等

時 間：60分～90分程度

4. 災害時に役立つロープワーク



ねらい：被災時の日頃使用している物品が手に入らない状況下であっても、ロープを活用することによって様々な場面に対応できることを理解する。

内 容：焚き木を集めたり洗濯物を干したりする際に使用できる数種類のロープワークを学ぶ。

活動エリア：どこでも可能

時 間：60～90分程度

5. あなたの防災バックの中身は？



ねらい：日頃の備えを見直すことで、災害に対する意識を高く持ち、自分自身の考えを深める。

内 容：防災バック（非常持ち出し品）に何を準備しておけばよいか、各グループで話し合う。また、実際に実物をバックに詰めて運ぶことで、持ち運びやすい防災バックを理解する。

活動エリア：学習室等

時 間：60 分程度

6. 防災食体験



ねらい：災害対応として常備されやすい防災食を実際に食べることで、平常時との違いや食の大切さを理解する。

内 容： α 米や缶詰等の食事を食べる。また、調理の際には、水とお湯で作ることで、温かい食べ物の良さを感じる。

活動エリア：多目的広場等

時 間：60 分～90 分程度

7. 防災野外炊事 (バッククッキング)



ねらい：被災時にも、少ない水と火で調理できることを理解する。

内 容：通常の野外炊事で作るカレー等を、バッククッキングで調理する。

活動エリア：多目的広場等

時 間：120 分～180 分程度

8. 避難所体験



ねらい：災害発生時の状況を疑似体験することで、実際に被災した際も、慌てずに自分で考えて行動できるようになる。

内 容：電気、水道、ガスが使用できない状況をキャンプ村で再現し、宿泊する。

活動エリア：キャンプ村

時 間：1 泊